

卒業後、それぞれの道でかがやくグローバルリーダーたち

※所属は2025年1月現在



株式会社日本政策投資銀行
石田 涼華さん

東北大学大学院医学系研究科(2022年度修了)
2019年度前期グローバルリーダー認定
2020年度前期から1年半にわたりTGLCAとして活動。

自分の可能性を広げるきっかけは「TGLプログラム」でした

私がTGLプログラムを始めたきっかけは「何か自分の専門分野の勉強以外で頑張れることを見つけてみたい」という気持ちを抱いたことです。

大学1年生の4月にTGLプログラムの説明会に参加し、「これこそが自分の頑張れることだ!」と強烈に刺さったことを今でも覚えています。こうしてTGLの活動を始めましたが、この活動をして本当によかったと思える点が2つあります。第1に、積極的に物事に取り組む姿勢を得られたことです。

特にグローバルゼミは、プレゼンやディスカッションなど、自発的に取り組み受講生皆で作っていく授業であるため、自ら一生懸命に授業やその課題に取り組む姿勢が求められます。他の受講生と共に考え一緒に授業を作り上げていくことで、より楽しくより深い学びを得ることができ、同時に「まずは何事にも取り組んでみよう」と思える姿勢を身につけることができました。

第2に、他学部、他学年、さらには他国の学生と一緒に授業を受け、自身の関わるコミュニティを広げることができたことです。自分とは異なるバックグラウンド

や考えを持つ学生のコミュニティに所属することで、これまでにない価値観や選択肢に出会うことができました。物事に対する積極的な姿勢と仲間との関わりは私のキャリア形成にも大きな影響がありました。

TGLプログラムでの価値ある経験は、看護師以外のキャリアの可能性を考えるきっかけとなり、現在では政府系金融機関での銀行員というキャリアを歩んでいます。そして経験したことのない業務にもまずはやってみよう!という姿勢で仕事に取り組むことができます。何か熱中できることに一生懸命取り組み、自分の可能性を広げていく、これを叶えるのがTGLプログラムなのではないでしょうか。

ぜひ、皆さんには、TGLプログラムを通して様々なご自身の可能性を得られる体験をしていただきたいと思います!

入学前グローバル学習プログラム

入学前グローバル学習プログラムは、AO入試等により東北大学に入学が決まった高校生を対象とした短期研修プログラムです。将来、グローバルに活躍できる若者の育成を目的としています。

2025年は海外派遣型プログラム3つ、国内派遣型プログラム1つを実施します。プログラムで定められた学習要件を修めた参加者は、東北大学入学後に単位取得が可能です。東北大学入学前にグローバル人材への第一歩を踏み出しませんか?



詳しくはこちら



2024-2029年度文部科学省「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」採択事業



ICL
Intercultural Collaborative Learning

国際共修

国際共修とは、言語や文化の異なる学生同士が、グループワークなどの協働活動のなかで学び合う活動を指します。多様な文化および自文化への理解を深め、自ら考える力を養うことで、グローバル化の進む社会で求められるさまざまな態度、姿勢、スキル、知識を身につけることを目的としています。様々な文化・言語的背景をもつ人々と協働する国際共修は、文化理解だけでなく留学準備やキャリア観の育成にも有効な経験となるでしょう。

国際共修を取り入れた授業は、東北大学全学教育の国際教育科目を中心に開講されています。興味がある方は、入学後に是非、受講してください。

詳しくはこちら

<https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/globalcampus/icl/>



TGLプログラムについて
詳しくはこちら:
<https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/about/>



海外留学・海外派遣プログラム等については「東北大学生のための海外留学ガイドブック」をご覧ください。



東北大学挑創カレッジ

東北大学グローバルリーダー育成プログラム

Tohoku University Global Leader Program 2025

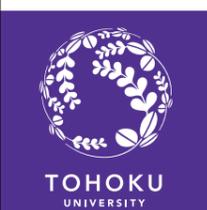


グローバル時代にかがやく。

on campus overseas
3+1
サブプログラム



TGLプログラムでは、進学・就職にかかわらず、将来のキャリア形成において必須の資質となる**専門基礎力**を基盤として、日本と海外の文化・歴史などを理解する**国際教養力**を養い、英語をはじめとする**語学力・コミュニケーション力**を高め、世界で活躍する**行動力**をバランスよく身につけることを目指します。



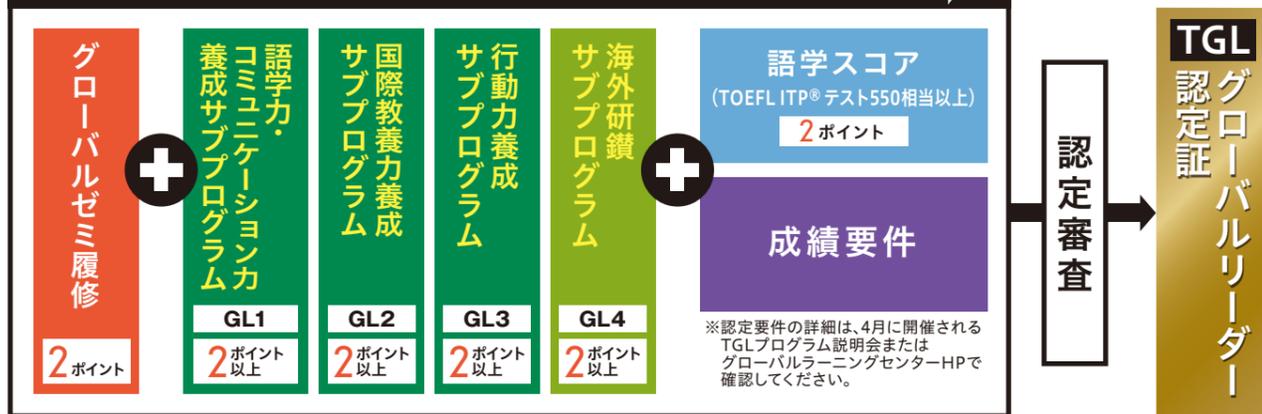
世界と向きあえる 存在になる

TGLプログラム(東北大学グローバルリーダー育成プログラム)は、さまざまな分野でグローバルに活躍する人材を育成するための学部学生を対象としたプログラムです。TGLプログラムでの学修の成果として、一定の条件を満たした学生には「グローバルリーダー認定証」が授与されます。

TGLプログラムの認定制度

グローバルに活躍できる人材として必要な能力をバランスよく身につけていくために、TGLプログラムが指定する科目や海外留学プログラムに参加して、TGLポイントをゲット!

合計16ポイント以上取得



TGLプログラム必修科目「グローバルゼミ」とは

小人数制の参加型授業で、TGLグローバルリーダー認定のために必須の科目です。この科目を履修することでTGLプログラムに登録されます。意識の高いさまざまな学部の学生と交流ができます。

- 全学教育科目(国際教育)2単位
- 開講期:1/2/3セメスター
- 火曜または木曜5講時(1・3セメスター)、水曜5講時(2セメスター)



TGLグローバルリーダー認定証授与式

TGLグローバルリーダーに認定された学生には、毎年2回開催される授与式にて認定証が授与されます。グローバルリーダー認定証は、在学中の海外留学や積極的な学びの姿勢などさまざまな取り組みが評価され、国際社会を牽引するリーダーとしての基礎的な能力を兼ね備えた学生であることを本学が認定した証明となります。

※認定された学生には認定証の他に、東北大学公認のオープンバッジ(デジタル証明書)が発行されます。

写真:2024年度第1回TGLグローバルリーダー認定証授与式の様子



TGLグローバルリーダー 認定者に聞いてみよう!

TGLグローバルリーダーは年間の認定者数が30~40名という狭き門です。そんなTGLグローバルリーダーに2024年度前期に認定された田野さん、廉さんのお二人に、前年度の認定者で、現在TGLCAとして活動する川名さんとお話を伺いました。



[右] 廉 維真(レン イシン)さん 理学部3年、茨城県立土浦第一高等学校卒業。海外研鑽:SAPオンラインカリフォルニア大学デービス校・STEM(2023年夏)

[中央] 田野 裕雅(タノ ユウヤ)さん 文学部3年、私立開成高等学校卒業。海外研鑽:FLオンラインカリフォルニア大学デービス校(2022年夏)カリフォルニア大学パークレー校への交換留学(2024年8月~)

[左] インタビュアー:川名 里沙(カワナリサ)さん 文学部4年、聖ウルスラ学院英智高等学校卒業。2023年にグローバルリーダーに認定され、現在はTGLCAとして活動中。

川名:TGLプログラムに参加したことで、自身の考え方や行動面にどのような変化がありましたか?



田野:思考面では、僕は自分の人生の一貫性を意識するようになりましたね。TGLプログラムを履修して、これまでの自分の個々の経験のつながりが見えてきて、どこかバラバラにやっていたように思えた物事の中に1本のストーリーが見えるようになりました。行動の面では「とりあえずやってみよう」という姿勢が身に付いたように思います。特定の物事に対してやるかやらないか迷ったときでも、「自分にとって何かしらの収穫になるかもしれないし、今後のアピールポイントになるかもしれない」と考え、積極的に行動できるようになりました。

廉:思考面では、TGLプログラムの中で留学生との交流を通じて、自分がこれまで不安だと思っていたことにも「なんとかなるだろう」と安心できるようになりました。国際共修で出会った留学生たちが様々なことに取り組んでいる姿を見て、それまで踏み出さなかった留学や博士課程進学などにも挑戦してみようという決心ができました。行動面では、タスクを効率よくこなせるようになりました。TGLプログラムは、授業時間外でのグループでの話し合いが多く、他の授業と比べて相対的に自由時間が少なくなるので、物事を効率よく行うことを重視するようになりましたね。また、グループ単位での評価もされるので、自分が行き詰まっても助けてくれる仲間がいるという実感も沸きました。

川名:もしTGLプログラムに参加していなかったら、どんな大学生活になっていたと思いますか?

田野:TGLプログラムがなかったら、ただ大学に行って友達と過ごして、「楽しい」しか感じずに卒業してしまっていたと思います。TGLプログラムを履修したことで、「今学期は何単位取ろう」「この時期までにはこの課題を解決しよう」など具体的な目標を決められたので、大学生活の見通しが明確になりましたね。「ちょっとこれやってみようかな」と一歩踏み出すきっかけになるし、グローバルリーダー認定という制度があるおかげで自分の頑張りもしっかり認めてもらえるので、TGLプログラムをベースメーカーにしながらメリハリのついた大学生活が送れていると感じます。

廉:もしTGLプログラムを履修していなかったら、他の学部との交流がないまま卒業を迎えていたと思います。大学には色々なバックグラウンドを持った人が集まりますが、限られた人しか関わらないまま卒業を迎えるのは、せっかくの交流の機会を手放すことになるので本当にもったいないです。文理を問わず自分と違う考え方をしている人とも繋がりができる、それがTGLプログラムの醍醐味だと思います。また、授業の評価方法がプレゼンやエッセイなど多様で、理学部の専門科目とは少し異なるので、様々な評価の方法にも対応できるようになりました。

川名:TGLプログラムへの参加を経て「グローバル」という言葉の捉え方はどのように変わりましたか?

田野:もともとは「外国人とたくさん交流すること」くらいの漠然とした捉え方をしていたのですが、TGLプログラムを経た今はむしろ「グローバル」というか、グローバルな視点をもってローカルな問題解決に取り組もうという方向性の理解が深まった感じがしています。国内の問題を考えた時議論したりする際にも国外からの影響は無視できるものではないので、どんなにローカルな課題に取り組む場合でも、世界規模で何が起きているのかというマクロな視点を持って良いのだと考えられるようになりました。

廉:私にとって「グローバル」というのは国境を超えること、というイメージは昔も今も変わらないですが、留学やTGLプログラムを通して、もっと身近な日常生活の中にも「グローバル」は存在していると思っています。例えば、今着ている服や使っているパソコン、あとはSNSもそうですね。グローバルに交流したいと思ったときに必ずしも海外に行く必要はなく、身の回りに目を向ければ、そこはもう既にグローバル社会の一部なのかもしれないという視点を持つことが出来ました。

川名:TGLグローバルリーダー認定およびTGLプログラム参加を考えている高校生や大学生の皆さんに、それぞれメッセージをお願いします。

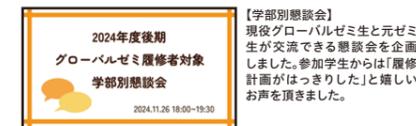
田野:「グローバルリーダーになりたい!」と最初から意識するのは良いことだと思いますが、大学生活をTGLプログラムだけで終わらせてほくはないです。自分の専門分野の勉強や、TGL以外のプログラムなど、「なんとなく面白そうだな」と思ったことが巡り巡って自分のキャリアに繋がる可能性も大きいと思います。あえて1つに絞らず、色々なことに挑戦してみたいです。これは高校生にも同じことが言えます。分野や勉強方法に関しても、自分がいまやっていることが必ずしも最適とは限りません。実はもっと効果的な方法が他にもあるかもしれないので、「文系だから」「理系だから」と枠を限定せずに、広い視野を持っていろいろなことを試してみたいです。

廉:私も田野君と同じで、TGLプログラムに興味を持って頑張りたいと思うのですが、他のプログラムにも目を向けながら、少しでも興味があればやってみる、くらいの気持ちで参加してほしいです。その方が多分、楽しさも増しますし、思いもよらない発見があるかもしれません。また、グローバルリーダーを目指さなくても、ぜひ国際共修の活動に一度は挑戦してみたいです。少しハードルが高いと感じるかもしれませんが、一人で何かを完成させるわけではなく、仲間や留学生が必ず支えてくれるので、それがいろいろな交流にも繋がります。ぜひ勇気を出して挑戦してみてください。



TGLCA(TGLコミュニティアンバサダー)とは

『Tohoku University Global Leader Program Community Ambassador』通称「TGLCA」は、東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)のリーダー認定を受けた有志からなる、本学生のリーダーシップ育成のための学生サポーターです。企画立案から実行まで成し遂げる経験がしたい、学部学年を超えた繋がりをもちたいと考える学生が集まり、グローバルに活躍するためのリーダーシップ獲得を目指す東北大生に向けた各種支援イベントの企画・運営や、学外に向けたTGLプログラムの広報を行っています。2024年度は、地域企業と留学生とのコラボレーションによるジェラート販売およびビールラベル開発プロジェクトに学生リーダーとして携わったり、仙台市内の高校を訪問して大学のゼミを模した出張授業を行ったりするなど、活動の幅を広げました。



TGLCAについて詳しくはこちら:<https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/global/tglca/>

